

# 焼岳

M・T

期 日：9月30日（23：50夜行バス）～10月1日

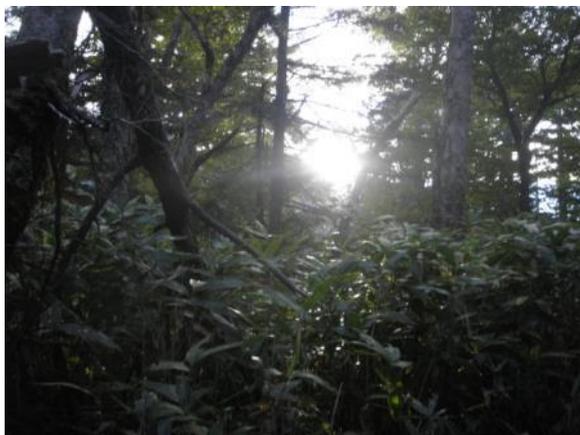
コース：新宿高速バス乗り場さわやか信州号23：50→中の湯5：15→予約タクシー→新中の湯登山口5：44→焼岳9：00～9：30→焼岳小屋10：27→上高地バスターミナル12：15～40→バス→新島々バスターミナル13：45～14：05松本電鉄→松本14：34→スーパーあずさ22号14：49→八王子16：49

報 告：新宿23：50分発の夜行バスで中の湯を目指す。4列シート、しかも申し込みも遅かったので覚悟をして乗車したが何と前から2列目の席。しかも通路を挟んで4席とも空いている。

ラッキー。一列目も男性一人。3列目からは満席で4人並んで乗車していた。2席使用し丸まって寝た。5時15分中の湯で下車。降りたのは私一人。まだ夜も明けきらぬ中、工事警備の人と登山者女子が話をしている。新中の湯登山口をきいているらしい。警備の方2人が、11号カーブの辺りが登山口と言っているのが聞こえる。おい、おい、この暗闇の中一人で熊を恐れず、ヘッドランプもつけずに歩くのか・・・1時間30分はかかるのに。ザックを背負っていざ出発らしき姿に思わずお節介心が口を出す。「焼岳に？」良



かったらタクシーが来ますけど、一緒にいかが・・・とお誘い。気持ち良く了解してくれた。そこへ予約して有ったタクシーが「Tさん？」と到着。2人で新中の湯登山口へ向かう。どうも登山禁止のト伝の湯の裏から登る旧ルートを考えていたらしい。20分ほどで登山口到着。タクシー代一人1040円也。歩くこと50分ほどでシラビソの間から登る朝日が輝く。天気を心配していたが大丈夫そのようだ。



いつの間にかすっかり夜も明け明るくなった登山道の足元にツルリンドウの可愛い実を見つける。涼しい朝の内なのに、汗をかきながら歩いてきたが、景色も良いため朝食をとる事にして件の彼女と別れる。

昨夜出がけに作ったサンドイッチと野菜ジュスで一人ランチタイムが楽しい。実は、目の前にこれから登る焼岳が素晴らしい姿をみせているのだ。噴煙もかすかに見える。何年も何年も来た



いと思っていたのにチャンスがなくやっと尋ねることが出来た宿題の中の一つの山だった。



中央シラビソのすぐ左窪んだところのもやもやが噴煙の上がる所です。落ち着いて朝食を摂るのももどかしく先を急ぐ。余りの素晴らしい景色に同じような写真を何枚も何枚も撮る。



ナナカマドは早くも赤く色付き始め白樺も黄葉を始めている。山は早くも秋色に染まり見事な色彩を楽しませてくれる。写真左は登山禁止の南峰。



早く山頂に立ちたいと心は逸るがいつも通りの鈍足。遠く中央アルプスも望まれ（知ったかぶりをしました。山行部長に教えてもらいましたので確かです。）気持ちが吸い込まれる。



左の写真は穂高連峰の山並みです。幾重にも連なる山並みを見ているとすらすら山名を言える人たちが羨ましい。何度見ても教えてもらっても私の頭の中では山の名前と形は一致しない。山を歩く楽しみの何分のいくつかは理解力の無さで損をしている。ここで愚痴っても仕方ないが。



先程の写真のシラビソの左の噴煙の上がる所が近づいてきました。活火山らしき景色です。南峰と北峰の科尔部分から火口湖が見えました。



荒々しい山肌を辿ると山頂。眺望がすばらしい。隠れていたた槍の穂先が見えた。



二人だけの山頂でのんびり地図を広げて展望を楽しんだ。下山準備をした時に丁度登ってきた人をお願いして山ガールと記念写真。

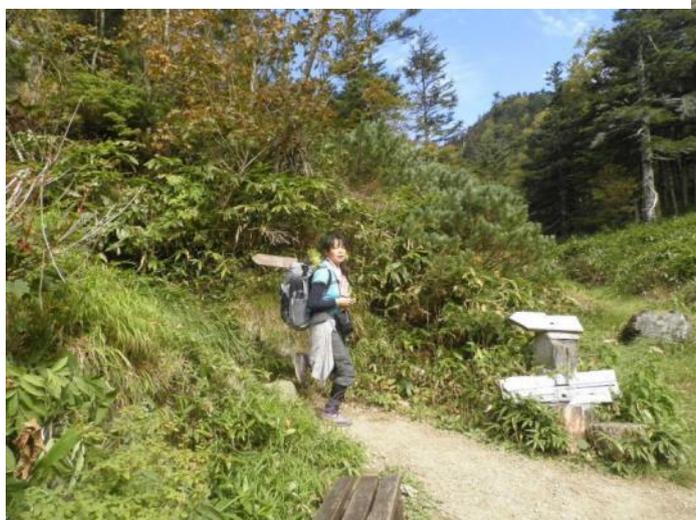
その前に彼女がセルフタイマーで二人の写真を撮ってくれ私にメールをくれる約束にはなっていたが、私のカメラでも撮りたかったので。記念撮影後、焼岳小屋を目指しいざ下山。名残は尽きずに西穂を手前に穂高連峰の写真をバチバチ撮る。振り返って仰ぐ焼岳。





写真左上の樹林の中の青い屋根が焼岳小屋。今回のコースの良いところは目的地が見えるルートが多いことでもあった。上高地へは焼岳小屋からは右手下の笹の中を下る。樹林の中のルートは西穂山荘へ向かう。下は中尾峠から見た焼岳。

焼岳小屋前で西穂に向かう彼女と別れた。一期一会の出会い。元気で山を楽しんでくださいね。



眼下に梓川の流れを見ながらルンルン気分で下るが、この下山道曲者であった。樹林の中に入ってから梯子有り、鎖有り、おまけにゴーロの道でした。

長いと感じながら上高地へ急ぎ入浴をやめて一刻も早く帰宅したいとバス停に急ぎました。

